

本科 0 期 2 月度

解答

Z 会東大進学教室

東大世界史



4章 共和政ローマ

添削課題

解答例

問1 北部：エトルリア人 南部：ギリシア人

問2 リキニウス法を復活して公有地の占有を制限して土地を分配し、没落した自作農の救済と重装歩兵部隊の再建に努めたが失敗に終わった。以後マリウスの兵制改革によって、無産市民の中から志願者が傭兵として雇われることとなった。軍隊は次第に有力な将軍の私兵としての性格を強め、政争が内乱へと転化していった。(145字)

解説

《グラックス兄弟と内乱の1世紀》

グラックス兄弟はどのようなやり方で「この危機」に対処しようとしたか。「この危機」というのが何を指しているのかということをもまずはつかまなければならない。リード文で「毎年のように繰り返される戦争は、このような農民層の疲弊と没落をもたらし」とある。さらに「このような農民層」というところの「このような」というのはリード文の1～2行目にある「政治と軍事において重要な役割を担っていたのは、主に中小の農民層からなる市民であった」というところから、農民＝軍人と読み取れる。したがって、グラックス兄弟は農民の没落＝軍事力の弱体化という危機に直面していたことがわかる。もちろんしっかりと学習している人ならば、これくらいはリード文に頼らずともわかるのかもしれないが、以後、リード文を軽視して論述問題を解いていってはいき詰まるのでここでしっかりと問題文を読み解く習慣をつけること。とりあえず、「どのようなやり方で」とあるのでグラックス兄弟の改革を具体的に書いていこう。

さて、次に問われていることは「その失敗が…」というところだが、なかなか文章に表現しにくいところである。おおよそのイメージがついていればよい。話し言葉の世界から早く抜け出して、書き言葉の世界に慣れていくためにも、多くの本を読むことを勧めておく。まずは教科書である。自分のベースとなるものを何度も読むこと。何度も読まないで自分のものにはならない。世界史論述は情報（知識）の量よりも表現力が大事である、と気づいたときには「時すでに遅し」になっている場合がある。今のうちから心して一つ一つの問題に取り組んでいてもらいたい。

解答例は、一定の考え方によって導かれたものである。ゆえに前提（問題の読み取り方）が異なれば、千差万別の解答が出てくることはいうまでもない。解答例や別解を鵜呑みにしないように。あくまで解答にいたるプロセスの一例である。

5章 帝政ローマ

添削課題

解答例

イタリア半島を統一したローマは、服属した諸都市に待遇の差をつけて団結を防ぐ分割統治をとったが、同盟市戦争後はイタリア半島の同盟市にローマ市民権が付与された。元首政期にはロンディニウム、ルテティアといったローマ風都市が各地に建設され、ローマ市民権はカラカラ帝の勅令で帝国の全自由民に付与された。しかし傭兵制による軍事費増大に対する都市への厳しい徴税から農村に逃れる者が増え、都市は衰退した。(194字)

解説

《ローマ支配下にあった都市の変遷》

問われている時期については問題がない。イタリア半島統一で紀元前 272 年（紀元前 3 世紀前半）、専制君主政期＝ドミナトゥスだから後 4 世紀くらいまでだということは調べずとも頭に入っていなければならない。しかし何を書かなければならないかがつかみにくい。「ローマ支配下にあった都市の変遷」とは一体どういうことだろう。とりあえず、ローマを学習した中で都市に関する情報をせいっぱい思い出してみること。すぐに教科書などを見るのではなく、思い出す努力を積んでいかなければならない。思い出すにあたって指定語句に目を向けてみよう。そうすると思い出すことが容易になるかもしれない。

まず分割統治だが、これはローマがイタリア半島で支配下に置いた都市をどのように治めていたか、というところから出てくる。

ローマ市民権という用語はあまりにも漠然としている。前の用語の分割統治とつなげるのならば、同盟市戦争後にイタリア半島全土に市民権が拡大されたことにつなげられる。

元首政期はローマ帝国が最も繁栄した時期である。前の用語のローマ市民権とつなげるならば、カラカラ帝の勅令による市民権の帝国全土への拡大があげられる。指定語句は順番に用いなければならない、と要求されているからローマ市民権を同盟市戦争のところで使わない場合には、元首政期が文章の後にくるように表現しなおさなければならない。

傭兵も専制君主政期に都市が衰退する理由として大事な話になるので困りはしないだろう。

つまり、問われている「ローマ支配下にあった都市の変遷」とは、ローマ支配下における市民権の拡大および都市が繁栄から衰退に向かう状況について述べよ、ということなのである。

この問題では語句を「下記の順番」で用いることしか要求されていない。2 度使ってはいけないのだろうか。この問題はここが不明なところだ。それよりも気をつけたいのが、この問題は要求が漠然としているために問題文から何を書けばよいかを読み取ることができず、指定語句が頼りになっていたことだ。くれぐれも注意していただきたいのは、指定語句を適当につなげていけばいい、という感覚を持たないこと。問題文の意図を読み解く意識を常に忘れないようにしよう。

解答例は、一定の考え方によって導かれたものである。ゆえに前提（問題の読み取り方）が異なれば、千差万別の解答が出てくることはいうまでもない。解答例や別解を鵜呑みにしないように。あくまで解答にいたるプロセスの一例である。

6章 古代インド

添削課題

解答例

西北インドのガンダーラ地方を中心に発展したもので、ヘレニズムの持つ現世的、人間的な世界観を思想的な背景として、写実的なギリシア風の表現方法を用いて、世界で最初の仏像製作が行われた。(90字)

解説

《ヘレニズム文化の伝播》

東大の【2】で出題される小論述問題は、「求められている内容」に比して制限字数が少ないものもあり、手ごわい問題が多数出題されている。また、出題テーマも、政治史、外交史、社会史、文化史と多岐にわたり、学習上の盲点を突くものも目につく。字数が少ないだけに、「知っていることを羅列したら、書きあがってしまった」ということもよくあるが、実際には「知っていること」だけ書いて加点されるはずもなく、「求められているもの」を「過不足なく」まとめて、初めて得点に結びつくのである。このことを念頭に置き、「この設問では、何が求められているのか」をしっかりと見極められるように、強い意識を持って演習問題に取り組んでほしい。

さて、この設問は、前述した特徴を持つ東大の小論述問題としては、比較的要求を把握しやすいものである。リード文前半の状況説明が長く、そこに目が行きがちではあるが、ここで求められているものは「(ヘレニズムに影響を受けた)美術の特質」である。つまり、「特質」に該当しない項目をいくら丁寧に説明したところで、何の意味もないのである。「特質」とは、「そのものだけがもつ、他のものと区別しうる、特殊なそのもの本来のありかた」という意味の言葉であるから、この美術がどのように成立したか、また、この美術が発展した国や地域はどこか、などを事細かにまとめたものでは本末転倒である。あくまで、「特質」をしっかりと指摘できるように構成をまとめていこう。

まずは、リード文の内容から、この美術を特定させていこう。「西北インド」、「ヘレニズム文明の影響」、「1世紀頃」という内容から、イラン系クシャーナ族が建てたクシャーナ朝(1～3世紀)の時代に成立した「ガンダーラ美術」であることがわからなければならない。では、このガンダーラ美術の特質、とはどのようなものであろうか。リード文中の「ヘレニズム文明の影響」という言葉から、土着の要素は当然含まれているだろうが、柱となるのはギリシア的な表現方法であることに気づいてほしい。ギリシア美術は、ポリスの精神的風土を背景に、調和と均整を重んじた写実的な表現方法を用いていた点が特徴とされている。これは、ヘレニズム文明にも受け継がれており、作品を製作する上での特質と考えることができるであろう。

また、ガンダーラ美術は、インドにおける最古の統一王朝マウリヤ朝（前 317 頃～前 180 頃）の時代以降、ガンジス川中・上流域で展開された初期仏教美術の影響から、ストゥーパ（仏塔：シャカの遺骨＜仏舍利＞を納める建造物、卒塔婆の語源とされる）の基壇部分に、仏伝図を中心とした装飾彫刻がほどこされている。これが、後 1 世紀頃に製作された、世界で最初の仏像につながっていったのである。

ここで注意をしてほしいのは、仏教信仰が盛んになって以来、製作されなかった仏像がつくり始められるには、単に製作技術の発展や技法が伝来すればよいのではない、ということである。つまり、それを製作する側に、何らかの心理的変化や思想的な根拠がなければ、既成の概念を打ち破って、新しい行動を起こすことはできないということである。すなわち、「行動主体の意志」が仏像製作に向かっていてこそ、世界で最初の仏像が製作されたと考えるべきなのである。この意志の部分については、一般的に、ヘレニズム文明の持つ、現世的な価値観とそれに基づいた造形思想が背景となっている、と考えられているが、最近の研究では、クシャーナ族がこの地に定着した当初信仰していたゾロアスター教の特質の 1 つである、靈魂の依代として「死者の肖像」を製作するという伝統も大きな影響を及ぼした、という説も提示されている。いずれにしても、見落としがちな「行動主体の意志」を、答案の中にしっかりと盛り込めるよう、意識して今後の練習に取り組んでほしい。

解答例は、一定の考え方によって導かれたものである。ゆえに前提（問題の読み取り方）が異なれば、千差万別の解答が出てくることはいうまでもない。解答例や別解を鵜呑みにしないように。あくまで解答にいたるプロセスの一例である。



会員番号

氏 名